

令和6年度 公私幼保合同研修まとめ



令和6年度 公私幼保合同研修 実施一覧（計60回）			
研修名		回数	掲載ページ
人権保育研修会		3	P1
子育て支援研修会		4	P1
資質向上研修会		4	P2
教育・保育理論研修会		6	P3
子どもの健康研修会		5	P4
マネジメント研修会		4	P5
特別支援教育・保育研修会		5	P6
タイムリー研修会		5	P7
安全・危機管理研修会		5	P8
看護職・養護教諭研修会		2	P8
就学前教育カリキュラム研修会		4	P9
保幼小連携・接続研修会		2	P9
施設長研修会		3	P10
主任・ミドル級研修会		3	P10
地域型保育事業研修会		3	P11
認可外保育施設研修会		2	P11
	◎今年度より、認可外保育施設もすべての研修会の受講対象となりました。		

人権保育研修会（全3回）

日時	テーマ	講師	内容	会場
7月25日(木) 14:30～17:00	人権保育のいま・これから～ 「同和」保育の歴史を通して学ぶ～	井上 寿美氏 (大阪大谷大学特任教授)	現在の三指針・要領（保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼稚園教育要領）の人権をめぐる記述内容の違い、人権意識の温度差について講義を受ける。大阪の同和保育が歩んできた歴史を知り、「人権のための保育」「人権としての保育」「人権をつうじての保育」「人権についての保育」とさまざまな方向から考え、人権を大切にする保育について学ぶ。	保育・ 幼児教育 センター
10月23日(水) 14:30～17:00	保育の実践から見えてきた子ども、保護者の状況から私たち保育者の役割を考える	蕨川 晴之氏 (社会福祉法人石井記念愛染園わかくさ保育園園長)	子どもの（家庭）状況について知り、その家庭への支援のプロセスから、その後子どもや家庭がどう変化したかを学ぶ。子どもが「大事な存在」と感じられるように一人ひとりに合わせた関わりや、育ちの中での「当たり前」に違いがあることを意識し、安心できる存在になることが大切であることを学ぶ。	保育・ 幼児教育 センター
1月15日(水) 14:30～17:00	気づきで救おう～こどもからのサインとその後の対応～	瀧本 宏子氏 (認定NPO法人児童虐待防止協会・大阪市事業登録スーパーバイザー/千里金蘭大学講師)	大阪市の児童虐待の現状、児童虐待の定義、子どもへの影響について学ぶ。また保護者対応の実際について事例を交えての話では、保護者との信頼関係をつくること、保護者と保育者の立場の差を理解し、意識して関わることの大切さについて学ぶ。子どもを守る地域ネットワークである、要保護児童対策地域協議会についても理解を深める。	保育・ 幼児教育 センター

子育て支援研修会（全4回）

日時	テーマ	講師	内容	会場
7月3日（水） 14:30～17:00	子どもと保護者に寄り添う相談援助ー理解から援助につなげるー	青井 夕貴氏 (仁愛大学准教授)	対人援助の専門性を支える基盤を学び、相談援助の始まりは相手を理解しようとする事、真逆な捉え方が有ること、そのために技術（視線、うなずき、繰り返し、質問など）を活用し、信頼関係に基づいた援助方法を学ぶ。	保育・ 幼児教育 センター
10月21日（月） 14:30～17:00	子育て家庭の抱えるさまざまな背景を知って、つながり、ささえる力をつけるー臨床心理学の視点を手掛かりとしてー	川岸 育子氏 (大阪健康福祉短期大学非常勤講師)	家族の状況は多様であり、子育てのありかたも多様。子どもの家族を尊重し、その子育てを支援する個別性が必要であることを知る。 また、その家庭への援助方法や、保育園や幼稚園に求められていることなどを学ぶ。	保育・ 幼児教育 センター
12月4日（水） 14:30～17:00	園全体で取り組む子育て支援	中谷 奈津子氏 (神戸大学大学院教授)	園における個別支援のプロセス、日常的に行う保護者対応の支援方法を知り、必要な対人援助技術（面接技法など）を学ぶ。また、ロールプレイを経て、具体的な支援方法や内容を考え、理解を深める。	保育・ 幼児教育 センター
1月23日（木） 14:30～17:00	より良い保護者支援とは	津村 薫氏 (フェリアン)	現在の社会背景として、保護者が変わったのではなく、大きく世の中が変化したことを知る。支援で最も重要なことは「あなたが大切です」という思いを伝えること。 バイスティックの七原則を確認し、支援の方法を学ぶ。 自分自身の価値観を知り、自己点検が支援の質の向上へつながり、また心身を整えることも必要だと学ぶ。	保育・ 幼児教育 センター

資質向上研修会（全4回）

日時	テーマ	講師	内容	会場
6月19日(水) 14:30～17:00	トキメキ、ヒラメキ・イメージ、 気づき・発見・できた！が豊かに 生まれる保育 ～子どもの遊びの世界を理解して、 子ども主体の保育を考えるために～	瀧川 光治氏 （大阪総合保 育大学教授）	「はじめの100か月の育ちビジョン」（こども家庭庁）、「やってみたいが学びの芽！」（文部科学省）などを通して、子どもの人権を軸に、一人ひとりの“ウエルビーイング”の向上のため“安心と挑戦”を大切にする保育の面白さについて学ぶ。「やってみたい」（トキメキ）が続き、新たな「できた 工夫から新しい挑戦」（ヒラメキ・イメージ）をくりかえし経験することができる環境が子どものウエルビーイングにつながることを学ぶ。	保育・ 幼児教育 センター
8月28日(水) 14:30～17:00	いいところ見つけを楽しむ保育 ～子どもと一緒に楽しい生活を 創造しましょう！～	輿石 由美子氏 （常磐会短期 大学保常勤務 講師）	グループワークでは保育の中で子どもの素敵なところ、楽しんでいると思う場面の写真等を持ち寄り紹介しあい、他のメンバーから感想や「いいところ」を付箋に書く。その中で自分の保育の良さに気付くことができ、自信をもつことにつながった。講義の中では、子どもは「好きな遊び」で育つこと、主体的な活動を支援する環境のあり方や、保育者の働きかけ、自分自身の保育について考える。	保育・ 幼児教育 センター
10月28日(月) 14:30～17:00	子どもの人権を『守り』『育 む』保育	ト田 真一郎氏 （常磐会短期 大学）	多様化する現代社会の中で、すべての子どもの「居場所」を創り出す保育実践のためには「人権」という価値観の重要性をしっかりと理解する必要がある。フランス発祥の認知症ケアの考え方「ユマニチュード」について動画と講義では、その基本である「人間」として尊重されることの大切さは子どもの保育にも通じるものと学ぶ。講義後半、クラス集団は「育てるもの」という視点から、人権力の3つの価値観「尊敬」「公平」「反偏見」のトライアングルを実践に生かすことの大切さについて学ぶ。	保育・ 幼児教育 センター
11月13日(水) 14:30～17:00	保育の質向上を目指した園作り （オンライン研修）	田澤 里喜氏 （玉川大学教 育学部教授）	保育とは人の根っこをつくる営みであり、人に関わる多くのことに通じる。マネジメントも保育も、大切にしていることは同じである。子どもの主体性を大切にできる保育者は、主体的に働く楽しさを知っている人であり、それぞれの「主体性」が尊重されるためには受容的・応答的（対話的）な関わりが大事になる。園の課題や強みを検討し、行事の見直しや「業務負担軽減」を考え、ゆとりのある中で「人材育成」に取り組む必要がある。講義後半はteamsを利用したグループワークで意見交流し、互いの園の悩み等を話し合う。	保育・ 幼児教育 センター



教育・保育理論研修会（全6回）

日時	テーマ	講師	内容	会場
6月17日(月) 14:30～17:00	子どもを語り合う指導計画の作成	山本 淳子氏 (大阪キリスト教短期大学学長)	『「子ども理解」指導計画が書ける先生のスタートライン 子ども理解は語り合うことから』の講師の仮説から、本当に子どものために〈生きた指導計画の作成〉はいかに？について学ぶ。子どもの姿を思いめぐらせ、「子どもを主語」に「今日の姿」をWeb図に書き、グループワークをしたことで、今日の保育を振り返り、明日の保育につなぐことができるヒントに気づき、今後の保育について考える。	保育・幼児教育センター
8月23日(金) 14:30～17:00	自分らしい感性と考える力を育てる表現活動と、そのための保育者の関わりかたとは	平野 真紀氏 (常磐会短期大学教授)	「指針、保育・教育要領から表現活動を捉える」について、乳児～幼児のそれぞれの成長、発達を改めて知り、発達過程から表現活動を捉えることを学ぶ。また「その子らしさを引き出す言葉かけや関わり方」について、具体的な実践の話を通して学ぶことで、子どもが積極的に表現活動に取り組めるようになる関わり方の大切さを知り、「保育者としての見つめる視点を深める」ことを学ぶ。	保育・幼児教育センター
10月4日(金) 14:30～17:00	幼児の体験を豊かにするICT活用方法	棕田 善之氏 (関西国際大学准教授)	子どもたちの遊びや体験を、より豊かにできるICTの活動例や活用方法を知り、「こんなふうに活用できる」ということに気付く機会となった。グループワークでは、「各園所でICTをどのように活用しているか、または、どのような活用が可能か、どのような学びがあると思うか」について話し合う。他園所の活用方法を知ることで、今後の取組の参考や、ICT活用方法を学ぶ。	保育・幼児教育センター
11月8日(金) 14:30～17:00	発達理解と子どもの思いにそった援助ー子どもの姿から、思いを見つけ、働きかける	長瀬 美子氏 (大阪大谷大学教授)	保育の基本としての発達理解は、一人ひとりの子どもに対する理解を深めること。そのために、「活動」「関係」の視点から、記録することで、傾向や特徴を多面的に捉え、計画や対応に生かすことや、生活・遊びとは、子どもの欲求・意思を大切にしたい生活づくり、夢中になれる、手ごたえのある楽しい遊びができる環境づくりが大切である。また、遊びの中での保育者の関わりと援助は、保育者が楽しんでいる姿こそ、最も大切な導入になることを学ぶ。	保育・幼児教育センター
12月12日(木) 14:30～17:00	保育記録とカリキュラム：子ども観と保育理念をつなぐ	吉田 直哉氏 (大阪公立大学准教授)	子どもの「学び」をどのように考えるのか。3つのキーワードから講義を受ける。 ①「プロジェクト」ーレッジョ＝エミリア市の保育のカリキュラムの考え方が大事。 ②「エマージェントカリキュラム」子どもの活動・学びの未来を予測することは不可能だと考え、事後的な記録をつなげていくことで子どもの学びを捉え、今後の道のりを見通す。③「ドキュメンテーション」過程の記録。記録は保育者だけのものではなく、子どもの育ちをみんなで見る。子どもとの対話を大事にするなど、保育記録とカリキュラムについて学ぶ。	保育・幼児教育センター
1月20日(月) 14:30～17:00	子どもたちが、現在をもっともよく生きるために～教育・保育理論にそって考える	瀧 薫氏 (城東よつばこども園理事長/大阪芸術大学短期大学部教授)	子どもたちが、現在をもっともよく生きるために、教育・保育理論に基づいて、保育の質の更なる向上につなげるため保育のアップデートをしていくことが大事である。子どもが自発的・意欲的に関われるような環境を構成し、子どもの主体的な活動や子どもの相互の関わりを大切にすること。特に、乳幼児期にふさわしい体験が得られるように、生活や遊びを通して総合的に保育すること。主体的・対話的・深い学びー柔軟で応用のきく、望ましい未来をつくり出す力となることについて学ぶ。	保育・幼児教育センター

子どもの健康研修会（全5回）

日時	テーマ	講師	内容	会場
6月4日（火） 14:30～17:00	乳幼児期の食物アレルギーについて～いかに事故を予防し、緊急時に対処すべきか～	亀田 誠氏 (大阪はびきの医療センター小児科主任部長)	食物アレルギーが起こり得る状況や原因、エビペンの使用方法について学ぶ。また、アレルギー症状を起こしているときの動画を見ることにより、事故予防や緊急時の対処の重要性を感じ、職員間で共通理解することへの意識が向上につながることを学ぶ。	保育・ 幼児教育 センター
6月27日(木) 14:30～17:00	学校等欠席者・感染症情報システム	大阪市こども青少年局保健施策部幼保企画課担当係長	サーベイランスは日々入力するだけでなく、そこから得られる多くの情報を活用することで自園所の健康管理に役立てる。周辺地域の感染状況、月報の作成、保護者向けの情報提供に使える掲示物の作成にも活用可能である。 実際にパソコンを操作しながら、具体的なサーベイランスの活用方法について学ぶ。	産 業 創 造 会館
9月18日（水） 14:30～17:00	楽しく食べるこどもに～私たちができること～	金岡 有奈氏 (羽衣国際大学准教授)	国や自治体が進める子どもの食育について学び、子どもの発育・発達から食を考え、離乳食の進め方、食の細い子への対応、偏食、好き嫌いの違いなどを学ぶ。グループワークでは悩みを共有し、工夫していることなどを話し合う。	保育・ 幼児教育 センター
10月24日(木) 14:30～17:00	就学前施設における感染症対策について	安井 良則氏 (大阪府済生会中津病院院長補佐/感染対策室長)	就学前施設内での主な感染症と感染経路について、最新の情報を交えた内容を学ぶ。 あらゆる感染症の原因は病原微生物に感染することであり「感染経路」が存在する。様々な感染症について「感染経路」を正しく理解し、感染対策を行うことが効果的である。 現在の新型コロナウイルス感染症の感染状況、特に小児の症例の特徴、今冬の新しいコロナワクチン、治療薬について学ぶ。	保育・ 幼児教育 センター
11月（オンデマンド配信）	学校等欠席者・感染症情報システム（オンライン研修）	菅原 民枝氏 (国立感染症研究所感染症疫学センター主任研究官)	サーベイランスとは、異常に気が付くことであり、報告ではない。いつ・どこで・誰が・何が・どれくらい発生しているのか等、感染症対策の基本材料になるので、リアルタイムで感染症流行状況を把握することは最も大事である。 早期探知・早期対応をすることで、集団感染や二次感染等の感染拡大による被害を抑えることができる。保育施設が主体的に感染症対策に取り組み、見直しの機会をつくることが大切。 感染症対策は、日常的な対応と感染症拡大防止策の対応と切り替えることが大事であり、保護者への情報提供も大切であるということ等を学ぶ。	保育・ 幼児教育 センター

マネジメント研修会（全4回）

日時	テーマ	講師	内容	会場
6月10日(月) 14:30～17:00	保育の質の向上とマネージメント	寺見 陽子氏 (一般財団法人 オフィステラ 代表理事)	保育の質の諸側面(構造の質・実施運営の質・相互作用あるいはプロセスの質など)について、社会情勢などの視点も盛り込まれ、現状のあり方、今後の保育のあり方など、様々な視点で考える機会となった。保育を考えることが楽しい、子どもも楽しい、保育者も楽しい、みんなで育つことの楽しさを感じることが、子どもたちの育ちをもたらすことにつながる。保育者同士の考えは、どちらが正しいと決めつけるのではなく、それぞれの考えを尊重し、受け入れ合えるようなマネジメントが必要であることを学ぶ。園内カンファレンス・研修の実施について学び、ミーティングの開催の仕方について考える。	保育・ 幼児教育 センター
7月29日(月) 14:30～17:00	保育者の同僚性を育むコミュニケーション～遊び心と責任と～	恒川 直樹氏 (常磐会短期 大学教授)	マネジメントを『「保育者としての私」、「同僚としての私たち」の課題』として捉え、「保育者の同僚性とは」について学ぶ。「クイズカンファレンス」を受講者で実施したことで、保育の共有と振り返りが主体的に取り組めることを知る。保育カンファレンスのもち方を工夫することで、協働的に保育を振り返り、専門性と保育の質を高め合っていくことを学ぶ。また、「同僚性」は、様々な「違い」があり、「違うけれど分かり合おう、違うからこそ分かち合おう」を前提として、普段から「雑談」できる関係が必要ということを学ぶ。	保育・ 幼児教育 センター
8月9日(金) 14:30～17:00	コミュニケーション力を育み合う～子ども・保護者・職員～	吉池 毅志氏 (大阪人間科 学大学准教授)	業務に求められる「コミュニケーションの力」を共に学び合う。「連携って、なんやろう?」ワークを通して、「私の連携のプロセス」を「弱みを知り、強みを知り、補充し合うジグソーモデルで!」と整理することで、自分の振り返りにつながった。「職員の力」「子どもの力」「保護者の力」を知っていくことで、見えている面だけでなく相手の内面を知ろうとすることが大事だということを学び、自分自身のスキルアップ、メンタル維持の意識も高まった。「話せない」空気は、それを生み出す要因を、自身の周りから入れ替えていくことから始め、話すことができる社会を意識していくことを学ぶ。	保育・ 幼児教育 センター
10月7日(月) 14:30～17:00	チームづくりの鍵を握る中堅保育者のキャリアアップ	青木 一永氏 (社会福祉法人 檸檬会副理 事長・大阪総 合保育大学非 常勤講師)	マネジメント力やリーダーシップは、管理職だけが身に付けるものではない。メンバーのマネジメント力、リーダーシップの醸成がチーム力向上の鍵ということを学ぶ。また3つの承認「存在・行動・結果」を言葉で伝えることや、言葉をプラスの言葉にしていくことの大切さを学び、一人ひとりがプラスの影響力を意識して、力を合わせてチームづくりをしていくことを学ぶ。	保育・ 幼児教育 センター



特別支援教育・保育研修会（全5回）

日時	テーマ	講師	内容	会場
6月12日（水） 14:30～17:00	発達や愛着に課題を持つ子どもへのよりよい支援	樋口 隆弘氏 (関西医科大学総合医療センター臨床心理士・公認心理師・医学博士)	支援が必要な子どもを受け入れるにあたって、何をを目指すのかを考え、アセスメントのポイントについて学ぶ。またアタッチメント（愛着）障がいを抱える子どもの支援において、子どものことを保護者に伝えるときのポイントと、拒否感をもたれることのないよう「引くことの大切さ」を学ぶ。	保育・幼児教育センター
8月30日(金) 14:30～17:00	大阪市の特別支援教育	大阪市教育局委員会事務局指導部インクルーシブ教育推進担当	大阪市は大阪市教育局振興基本計画に基づき「共に学び 共に育ち 共に生きる教育」としてインクルーシブ教育を推進している。大阪市内における障がいのある子どもの多様な学びの場である通常学級、特別支援学級、通級による指導の実践について詳しく知ることができた。また、「合理的配慮」と「自立活動」の関連についても学ぶ。子どもの学びを支援する教育委員会の取り組みとして、学校支援（特別支援教育サポーター、インクルーシブ教育推進スタッフ、巡回指導等）があり「チーム支援」で組織的な指導、支援を行っている。	保育・幼児教育センター
9月10日（火） 14:30～17:00	すべての子どもが過ごしやすい保育を目指して～インクルーシブな保育～	守 巧氏 (こども教育宝仙大学教授)	保育者が気になると感じる子どもの行動背景、クラス状況の近年の傾向について知る。「インクルーシブな保育」は全てを包摂し、分離や排除が無いインクルージョンを目指す保育であり、対象は「すべての子ども」で「多様性・複雑性」を前提とした保育を目指す。「個」の支援に捉われすぎず、その前に「環境」に着目し見直していくことは、クラスにいるすべての子どもたちにとっても意味があり、保育の質の向上に良い影響がある。クラス運営の中では、できるだけ多くの価値観をクラスに根付かせ、全ての子どもが居心地の良い雰囲気づくりを目指す。「インクルーシブな保育」を支えるため園の子ども観・保育観などの方向性を共有し、同僚性を高めていくことも大切であることを学ぶ。	保育・幼児教育センター
11月25日(月) 14:30～17:00	困っている子どもの理解とクラスに適した支援	布市 敦子氏 (大阪市更生療育センター作業療法士)	子どもの行動には意味があり、訳がある。そのことを理解することは、「困っている子」を理解することにつながる。例えば覚醒については、朝の覚醒レベルは子どもによって様々で授業、遊びにうまく適応できないことがある。「朝活」として子どもの好みの感覚刺激を取り入れていくことで、子どもが自分らしく活動できるレベルに整えていくことができる。同じように見える行動にも理由がいろいろある。多くの「困っている子」への支援について写真や支援グッズを実際に見て、具体的な支援方法について学ぶ。	保育・幼児教育センター
12月24日(火) 14:30～17:00	就学前施設における医療的ケア児の受け入れについて	宇野 里砂氏 (武庫川女子大学教授)	就学前施設における医療的ケア児の受け入れのためには、「医療的ケアや病態の理解」「ケアのマニュアル化」「関係機関等との連携」「当該児童の発達支援」等と、受け入れのための環境面を整えていく必要がある。講義では、身体機能の発達段階と咀嚼機能の関係性などについて講義を受け、経口摂取できない場合、栄養補給のための経管栄養について学ぶ。 また喀痰吸引、気管切開カニューレ、導尿時に使用する実際の医療用具を見たり、触れたりして学びを深める。	保育・幼児教育センター

タイムリー研修会（全5回）

日時	テーマ	講師	内容	会場
7月9日（火） 14:30～17:00	子どもたちに平和な社会を ～空襲体験から思うこと～	横山 篤夫氏 (元関西大学非常勤講師)	『私の戦争体験・三歳からの記憶』(坂田朱美、 幻冬舎)をもとに講師自身の戦争体験の話を聞 く。東京大空襲、大阪大空襲、戦略爆撃の空襲、 原爆・核兵器について、大阪大空襲で被災した のは日本人だけではなくたことなど、様々な ことを学ぶ。最後に今、自分たちがここにいる 意味『自分の番 いのちのバトン』(相田みつ を)を考える。一人ひとり命のバトンを継いで 今、ここにいるということを学ぶ。	保育・ 幼児教育 センター
8月5日(月) 14:30～17:00	子どもがわくわくする運動 遊び～保育者の関わりと工 夫～	村田 トオル氏 (大阪青山大学 教授)	現在、未来を担う子どもたちの中で、メタボ リックシンドロームやロコモティブシンドローム の子どもが増えてきたが、その子どもたちを 救えるのは本物の遊びである、昼間に運動遊び を十分に行うことで、食育や社会力、生活習慣 の基本、成功体験等、大人が望む、子ども本来 の姿につながることを学ぶ。後半は実技で①み んなでジャンプ②ジャンケンサーキット③リ レー遊び等集団遊びの体験や、器具の置き方の コツや運動遊びの指導法（オノマトペを活用す る）等を学ぶ。	保育・ 幼児教育 センター
9月12日（木） 14:30～17:00	保育実践の中で〈子ども〉 を捉えるー自分たちなりの 〈子ども〉観の探求ー	吉田 直哉氏 (大阪公立大学 准教授)	子ども観の歴史的な変遷を知り、自分の子ど も観はどう形づくられてきたのかを振り返る機 会となった。子ども観は気付かぬうちにでき、 変わることは少なく、子どもへの視線が固定化 しがちであり、気を付ける必要がある。チーム の子ども観がバラバラであると「何を指して 保育するのか」という方向性が合わない。 さらに「発達観」と「能力観」の関連性につ いても聞き、子どもの発達を「環境との相互作 用（関わり合い方）の変化」として捉え、コ ミュニケーションを大切に、ポジティブに捉 えて保育のあり方を考えることで、保育が楽し くなるということを学ぶ。	保育・ 幼児教育 センター
11月12日(火) 14:30～17:00	砂場をもっとプレイフル に！ー子どもの主体性を引 き出す砂場遊びの展開と工 夫ー	笠間 浩幸氏 (同志社女子大 学特任教授)	砂場遊びについて、子どもの発達段階によっ て砂場の遊び方は違うこと、砂遊びは子どもが 主体的に遊び込める環境がそろっていること、 子どもは遊びながら学び、学びながら遊びを発 展させていること等を学ぶ。「目の前の子ども たちはどのような力を発揮しているか、目の前 で展開している砂遊びで発揮されている子ども たちの力を注意深く見ていきましょう」という アドバイスを受ける。また、保育者の役割や、 砂場は「幼少連携」実践の架け橋であることを 学ぶ。	保育・ 幼児教育 センター
12月20日(金) 14:30～17:00	造形あそびを体験しよう！ 表現活動の指導のポイント！	山本 将之氏 (大阪大谷大学 准教授)	はじめに、細い画用紙を使って帽子づくりを 体験し、受講者一人ひとりの多彩な表現の交流 をする。子どもの発達を理解し、成長に合わせ た作品の評価や、造形遊びの指導のポイントを、 具体的な事例をもとに講義を受ける。子どもの 主体性を育む導入について知ることができ、子 どもの表現の幅が広がるような取組の大切さを 学ぶ。	保育・ 幼児教育 センター

安全・危機管理研修会（全5回）				
日時	テーマ	講師	内容	会場
5月21日(火) 5月23日（木）	救命救急講習Ⅲ	大阪市旭消防署	DVDにて応急手当講習、一次救命処置とファーストエイドの手順や心肺蘇生法（CPR）、AED使用方法について学んだ後、人形を使い、心肺蘇生の手順、AEDを使用しての実技演習を行う。	保育・幼児教育センター
6月18日（火） 14:30～17:00	救命救急講習Ⅲ			
6月25日(火) 15:30～17:00	食中毒の予防について	大阪市保健所生活衛生監視事務所	食中毒について、食中毒と腐敗の違いや、食中毒を引き起こす有害微生物、有毒・有害物質を知る。手洗い方法や、調乳についての衛生管理、食品衛生法の改正について学ぶ。	保育・幼児教育センター
8月27日（火） 14:30～17:00	保育事故を減らすには～保育者と子ども自身の安全意識を高めよう～	岡 真裕美氏 （大阪大学大学院人間科学研究課安全行動学研究分野特任研究員）	事故発生のメカニズム「バイアス」1.正常性バイアス 2.楽観性バイアス 3.生存者バイアス 4.同調性バイアスなど、自分たちの思い込みについて知ることができた。事故が起きやすい3H「はじめて・変更・久しぶり」について自園でどうしたらよいかを考える機会となり、子どもの特性を知って、事故を防ぐことの大切さを学ぶ。	保育・幼児教育センター
10月4日（金） 14:30～17:00	施設内の危機管理（防災）（オンデマンド研修）	地下 まゆみ氏 (大阪大谷大学教授)	リスクマネジメントでは、自然災害を知り、園の周りの危険箇所をハザードマップなどで確認する。また生命にかかる時間“3の法則”を学び、施設内の地震に対する防災対策を考え、防災教育として、子ども目線で「危ない箇所」はどんなところか考える。子どもも大人も、自分の命を守ることが大切であることを学ぶ。	オンデマンド配信

看護職・養護教諭研修会（全2回）				
日時	テーマ	講師	内容	会場
7月30日(火) 14:30～17:00	未就学児施設における医療的ケア児への関わり－発達の見通しを持った支援－	宇野 里砂氏 (武庫川女子大学教授)	医療的ケア児の事例や医療的ケアについてや、施設の看護師が気になる子どもに対しての関り方等を学ぶ。また、二分脊椎症、間欠的導尿、水頭症について、喀痰吸引、気管切開、糖尿病、痙攣・てんかん等様々な医療的ケアへの対応を学ぶ。	保育・幼児教育センター
9月6日(金) 14:30～17:00	子どもの健やかな育ちを願って私達にできること	横山 利枝氏 (神戸常磐大学准教授)	保育所保育指針から保育の目的、保育所の役割等について学び、子どもの健康支援について確認する。グループワークでは、保育所配置の看護師の役割、働く中での困りごと・悩みごとについて話し合う。また、保育の専門性と看護の専門性の違いについて学び、違いはあっても簡単に線引きできるものではなく、お互いの専門性を認め合いながら、協働していくことが大事であるという視点を学ぶ。	保育・幼児教育センター

就学前教育カリキュラム研修会（全4回）

日時	テーマ	講師	内容	会場
5月28日(火) 15:00～17:00	子どもに応じた働きかけとは…～就学前教育カリキュラム 基礎編～	大阪市保育・幼児教育センター 研修・企画担当 係長	就学前教育カリキュラムの本編を通して、子どもの発達のためやすや、経験させたい活動、また参考事例集の活用方法を知った。3歳児の動画を通して、教育的意図をもった働きかけについて考え、「知・徳・体」について学ぶ。	保育・幼児教育センター
7月11日(木) 15:30～17:00	子どもに応じた働きかけとは…～就学前教育カリキュラム 基礎編～	大阪市保育・幼児教育センター 研修・企画担当 係長	就学前教育カリキュラムの本編を通して、子どもの発達のためやすや、経験させたい活動、また参考事例集の活用方法を知った。3歳児の動画を通して、教育的意図をもった働きかけについて考え、「知・徳・体」について学ぶ。	保育・幼児教育センター
8月1日(木) 15:00～17:00	子どもの育ちの発信とは？～就学前教育カリキュラム活用編～	大阪市保育・幼児教育センター 研修・企画担当 係長	「知・徳・体」をバランスよく総合的に育むためには、保育者が子どもに育みたいことを願い、教育的意図をもった働きかけを明確にもつ必要がある。グループワークでは、5歳児の「リレー遊び」の事例をもとに子どもの育ち、保育者の働きかけなどを個々に考え、共有し学ぶ。事例をもとにしたドキュメントの作成例から、保護者への発信に活用する方法をイメージし考える。	保育・幼児教育センター
9月9日(月) 15:00～17:00	子どもの育ちの発信とは？～就学前教育カリキュラム活用編～	大阪市保育・幼児教育センター 研修・企画担当 係長	「知・徳・体」をバランスよく総合的に育むためには、保育者が子どもに育みたいこと（願い）、教育的意図をもった働きかけを明確にもつ必要がある。グループワークでは、5歳児の「リレー遊び」の事例をもとに子どもの育ち、保育者の働きかけなどを個々に考え、共有し学ぶ。 事例をもとにしたドキュメントの作成例から、保護者への発信に活用する方法をイメージし考える。	保育・幼児教育センター

保幼小連携・接続研修会（全2回）

日時	テーマ	講師	内容	会場
7月23日(火) 15:00～17:00	保幼小のバトンをつなぐ 架け橋プログラム～子どもたちの学び・育ちが、より豊かになることを願って～	佐久間 淳史氏 (大阪教育大学准教授)	保幼小の連携について、幼児教育でしてきたことを小学校で発展させること、思考力を高める（考えて選ぶ）ことなど様々なことを学ぶ。スタートカリキュラムスタートブックの内容や、「遊びは学び、学びは遊び、“やってみたいが学びの芽”」の動画を通して、様々な取組について講義を受ける。 後半は就学前施設と小学校の職員とで連携・接続の現状について交流する。	保育・幼児教育センター
11月27日(水) 14:30～17:00	保幼小連携・接続をすすめていくために～他市の事例を参考に～	田辺 昌吾氏 (四天王寺大学准教授)	保幼小連携・接続を進めていくための基本的な考え方を確認し、他市、他園の実践を聞く。「はじめの100か月の育ちビジョン」、保育要領等の記載内容をふまえ、「0～18歳の学びの連続性」を保障するためには、幼児教育と小学校教育の架け橋プログラムが大切である。 小学校の環境に適応することを意識しすぎず、幼児期の学びの芽生えから自覚的な学びに変わる発達の過程を、架け橋期のカリキュラムに取り入れていくという方向性をもち、相互理解・相互尊重を大切に進めていく。後半は就学前施設と小学校の職員とで連携・接続の現状について交流する。	保育・幼児教育センター

施設長研修会（全3回）				
日時	テーマ	講師	内容	会場
6月13日(木) 14:30～17:00	施設長の役割とマネジメントを考える	松井 剛太氏 (香川大学准教授)	従来型リーダーとファシリテーションリーダーの違いについて講義を受け、これからのリーダーシップ論について考える。心理的安全性の大切さや、協働型研修で省察を促す、研修転移が起きるようにすること、まなぎしの媒介作用を意識することを学ぶ。グループワークでは、職員が「動きたくなる」「話したくなる」仕掛けを考える。	保育・ 幼児教育 センター
9月17日(火) 14:30～17:00	共に学び合う働きやすい職場づくり	吉岡 真知子氏 (東大阪大学学長)	子どもたちと関わる仕事を続けている意義を振り返り、施設長の魅力について考える機会をもつ。職員一人ひとりの個性を認め尊重し、職員の個性を生かす運営、中間管理職（主任）との共有、施設長が手本になるよう施設の中で生活しているか、楽しんでいるかなどを確認し、人を大事にする、お互いに尊重し認め合える職場づくりについて学ぶ。	保育・ 幼児教育 センター
12月16日(月) 14:30～17:00	保育を楽しむ組織マネジメント～働きたい職場をつくる施設長の役割～ (オンライン研修)	井上 眞理子氏 (洗足こども短期大学教授)	リーダーシップのために必要なことや、保育者が「保育が楽しい」と思えるような組織のマネジメントについて学ぶ。	保育・ 幼児教育 センター

主任・ミドル級研修会（全3回）				
日時	テーマ	講師	内容	会場
8月2日(金) 14:30～17:00	教職員の連携・協働を意識したチーム作りのためにできること	岸本 みさ子氏 (千里金蘭大学准教授)	「心理的安全性」を確保した職場づくりに貢献できるように、ミドルリーダーの役割や保育現場での思考検証を通して見えてきた課題を学ぶ。 園内研修は「保育の質向上」の鍵であること、活用方法や準備に関する具体例などを学び、グループワークでは実際にKJ法を使って、他園と意見交流をする。	保育・ 幼児教育 センター
11月20日(水) 14:30～17:00	「子ども理解」を語り合い・深め合い、豊かな子育て支援を～保護者理解を含めて～	甲斐 真知子氏 (NPOおおさか教育相談所副理事長)	子どもの見方①「子どもの権利条約」を基本に子どもを見ていく②子どもの「いのち」を守り、「願い」から支援・指導がはじまる③豊かな「経験」と「遊び」が学びの土台となる等を学ぶ。また、講師が保護者支援で大切にしてきたこと（保護者の尊厳を大切に・日常のあいさつが信頼関係のはじまり・保護者同士のつながりの力を信頼する・個人懇談ではポジティブなエピソードから話す・クレームの時は複数対応で記録をとる等）から保護者との関わり方を学ぶ。	保育・ 幼児教育 センター
1月27日(月) 14:30～17:00	有効な指導計画の作成と実践	松井 剛太氏 (香川大学准教授)	指導計画の作成において、発達の目安に捉われすぎず、子ども理解（子どもの今の姿を過程の中で捉え、受け止める）や、幼児理解（言動や表情から、思いや考えなどを理解し、かつ受け止め、その幼児の良さや可能性を理解しようとする）ことが重要であることを学ぶ。 グループワークでは、各園所の指導計画を持ち寄り、他園所がどのような計画を立てているのかを知る。	保育・ 幼児教育 センター

地域型保育事業研修会（全3回）

日時	テーマ	講師	内容	会場
8月7日(水) 14:30～17:00	子どもを理解するために大切にしたいこと	福岡 恵子氏 (元なないろスマイル保育園園長)	「子どもを理解するために大切にしていること」は何ですか。というテーマでグループワークを行い、他園との交流や学びを得る。子どもの行動には理由があり、それを保育者が理解しようとするのが大事であること、子どもと相談して共につくる環境や子どもに感謝して働くなど、保育者としての仕事の素晴らしさを学ぶ。	保育・幼児教育センター
10月9日(水) 14:30～17:00	子どもの発達にそった援助や関わり方とは？～小規模保育園の強みを生かす保育とは？～	中山 有理氏 (南住吉つばさ保育園園長)	子どもの発達段階を振り返り、一人ひとり寄り添う援助や愛着形成について学ぶ。子どもの姿を観察・記録することで、子どもへの援助のあり方が見え、次の保育につながっていくことを知る。 グループワークでは、子どもの成長段階で大事にしていることや小規模保育園で良かったと思うことなどを話し合い、他園と交流する。	保育・幼児教育センター
12月9日(月) 14:30～17:00	地域型保育事業における、保育の現状と課題	吉岡 真知子氏 (東大阪大学学長)	地域型保育事業だからこそできる、一人ひとりの子どもに応じた丁寧な援助や非認知能力を育てるための関わりなどを学ぶ。グループワークでは「家庭的な雰囲気の中、親としての始まりに寄り添う保護者支援」について、他園所の現状や地域型保育事業の課題について、皆で共有したり助言を聞きながら学ぶ。	保育・幼児教育センター

認可外保育施設研修会（全2回）

日時	テーマ	講師	内容	会場
7月5日(金) 14:30～17:00	より良い保育を行うためのマネジメント	青木 一永氏 (社会福祉法人檸檬会副理事長・大阪総合保育大学非常勤講師)	マネジメントとは、他者を通じて物事を成し遂げる・共有されるリーダーシップ・一人ひとりがリーダーシップを発揮する組織づくりである。マネジメントで大切になることは、目標を明確にする・信頼関係を築く・ティーチングとコーチングを使い分ける・コーチングの鍵を握る問い・フィードバック(ポジティブ・ネガティブ)ということについて学ぶ。	保育・幼児教育センター
9月4日(水) 14:30～17:00	子どもが主体的な保育とは？～保育園の実践を通して～	中山 有理氏 (南住吉つばさ保育園園長)	丁寧な保育・子ども主体の保育を実現するために、大切にしたいこと、異年齢保育のメリットや課題について学ぶ。「やりたいことは先生？子ども？」と考える機会となり、子どもの姿から考える指導計画について学ぶ。	保育・幼児教育センター

